

# ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN 2013-2014 WEEKLY REPORT

ロータリーを  
実践し



みんなに  
豊かな人生を

## 名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル  
■会長 / 白藤 憲雄 ■幹事 / 本多 利郎 ■会報・雑誌・広報委員長 / 安藤 修  
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号  
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail [info@meinan-rotary.com](mailto:info@meinan-rotary.com)

2013-14年度 国際ロータリー会長 ロンD.バートン

### 第1068回

2013年10月22日(火) 曇り 第16回

～ 職業奉仕月間・米山月間 ～

斉唱 四つのテスト  
出席 会員56名(出席率算入人数54名)  
出席45名 出席率83.33%  
前々回補填率81.58%(10月5日分)

#### 会長あいさつ

会長 白藤 憲雄さん

皆さま、こんばんは。本日のイニシエーションスピーチは白坂さんです。よろしくお願ひします。

以前にも車の盗難のお話をさせていただきましたが、当時は車の盗難と平行して車上狙いも横行していました。最近は落ち着いているのではないかと思います。自動車メーカーの方とお話すると、カーナビがよく盗まれたそうです。メーカーも考えて、4カ所ボルト締めに変わってきました。車の盗難もまだまだ発生しているので、皆さまも気をつけていただきたいと思います。

今日は白坂さんのスピーチを楽しみに、会長あいさつと致します。



#### 幹事報告

幹事 本多 利郎さん

1. 海外出張届けが出ています。三浦 隆さん、10月22日から30日までイギリス、フランスです。
2. 次回、10月29日は休会となっておりますので、お間違えのないようお願いします。

#### ニコボックス

- ◆ 先週の職場例会に多数御参加いただき、ありがとうございました。 木村 猛さん
- ◆ 本日はイニシエーションスピーチをさせて頂きました。よろしくお願ひします。 白坂 修二さん
- ◆ 白坂修二さんのイニシエーションスピーチ楽しみにしております。

佐々木元彦さん 宮崎 良一さん 榊原 和美さん  
伊藤 圭一さん 長尾 浅吉さん 川瀬 悟さん  
杉本 勇さん 本多 利郎さん 川辺 清次さん

吉木 邦男さん 佐々木 暢さん 杉山 隆秀さん  
三島多恵子さん 大橋さなえさん 犬飼りさ枝さん  
久米 伸治さん 田中 一雄さん 有川 英敏さん  
細井 俊男さん 加藤 英敏さん 山本 誠一さん  
白藤 憲雄さん 鈴木 一博さん 野々村憲吾さん  
新原 尚さん 中村 勝さん 東山 直史さん  
猪村 美之さん 木下 福郎さん 坂本 晃さん  
森田敏二三さん 田子 充浩さん 加藤 宜之さん

本日合計 42,000円 累計 494,000円

#### アンチエイジングエクササイズ

中村 勝さん

#### イニシエーションスピーチ

白坂 修二さん

皆さま、こんばんは。本日イニシエーションスピーチをさせていただきます、東海東京証券の白坂でございます。よろしくお願ひします。

非常に月日が経つのは早いもので、7月の新年度より入会させていただきましたが、諸先輩方のお陰で3ヶ月を迎える事ができました。また本日の激励感謝申し上げます。

まず、最初に私の簡単な自己紹介からお話しさせていただきます。その後、転勤先で決意した事を述べたいと思います。

1962年、昭和37年に宮崎県えびの市で生まれました。その後、父の仕事の都合で宮崎県都城市、それから鹿児島県鹿児島市を歩き来していました。えびの市は今でもJRが単線で1日に3本位しか通っていないと思います。幼少時代の里帰りの記憶ですが、相当な田舎でした。小・中時代を過ごした、都城市も非常にのんびりとした所で、町自体もあくせくする様子もなく、また人も温厚な人が多かったと思います。昨今、東国原さんのお陰で幾分、知名度も高くなりました。また、全国に行き渡っております、芋焼酎の「黒霧島」や「赤霧島」の製造元でもあります。大学時代は鹿児島で過ごし、繁華街でアルバイトに明け暮れていました。私の東京に居る従兄弟は、東京出身の東京育ちですが、たまに帰省した時にその田舎の風景を見て、やはり田舎はいいなとか、いつもお墓を見てもらって助かっていますと言います。どうやら宮崎・鹿児島はお墓を大事に



するという印象が強いそうです。どんな供養でも欠かさずに、先祖を敬うと言いますか、そう言った教えがあったのかと思います。私も結婚して、女房、子供を連れて帰省した際に両親が迎えに来ていた頃は、必ずと言っていい程、まず両家のお墓参りに連れて行かれました。

話が逸れましたが元に戻りまして、無事大学を卒業しまして、1985年、昭和60年に合併前の東京証券に入社しました。丸28年在籍していますが、自分でもよく持ちこたえているなど不思議に思っています。入社当時の日経平均が13,100円でした。ちょうどこの年がプラザ合意の年です。年始、1ドル250円だった為替が年末には200円と大きく、円高・ドル安と転換を迎えた年でもありました。入社して2店舗目の静岡で今の家内と巡り合いました。平成2年2月3日に式を挙げました。私どもの業界用語に「節分天井・彼岸底」という言葉がありますが、まさに「節分天井」でした。

この鳴海支店で15店舗目となります。28年目ですから、在籍年数を考慮しますと、2年弱で転勤となっています。恐らく鳴海支店も非常に短命になると危惧しています。しかしながら会社に感謝しているのは、行く先々で方言や文化の違いを勉強させてもらえることです。東北の仙台から四国の高松、この範囲で動いております。その中でも仙台の単身の3年間と家族で移り住んだ高松の2年間は印象深いものがありました。

仙台支店の時には、エリアが東北6県でしたので非常に広がりました。春になると桜前線と共に動いていました。夏にはご当地のお祭りがあり、それに合わせて予定を立てていました。高松は、私の将来の目標、決意を醸し出してくれた所でございます。東京証券が合併した平成12年は、高松支店にいました。四国は他に松山と高知に支店がありましたが、営業上の都合でエリアを越えて足を運ぶ機会がありました。その時に車の中からどうしても目に留まる光景と言うのが、お遍路さんでした。老婆が一心不乱に歩く姿や、全身に汗をかきながら無口で歩き続ける高齢の男女などさまざまでしたが何か惹きつけられる物がありました。ちょっとした茶店小屋でお話を伺う機会があり、唐突に「何がそうさせるのですか?」と聞いたことがあります。今考えると、失礼な事を言ってしまったと思います。その方曰く、「次なる目標が目の前に見えるから」とおっしゃっていました。実際に次の目標が見えている訳ではないですが、目の前にあると感じられたのだと思います。それで、はっとさせられたと言いますか、これまでの自分の人生を振り返りまして、将来像とか、具体的な目標もなかったものですから、ただ日々の事に埋没させられている様な気がしました。その時から自分の物の考え方や、生き方が別段変わった訳ではないですが、将来その偉業を自分の足で成しえてみようかという思いに変わりました。実際に高松にいた2年間に実行してはいたのですが、車でドライブに行った時に、目の前にお寺さんに参拝。それぐらいの感じでした。お遍路部隊について私の知り得た範囲でお話させていただきたいと思います。中には経験された方もいらっしゃると思いますがご容赦ください。

この歩くというのは、瞑想であります。四国の山河を1歩また1歩と歩きつつ、自分の人生について考えるのが四国八十八ヶ所霊場の巡礼の旅です。この道

を歩ききると、肉体的にも、精神的にも人は強くなれると思います。八十八ヶ所霊場に行くと必ず、山門や本堂には、松葉杖や義足が奉納されています。

ある寺ではこう言う話が伝わっています。足の悪い方が木製の箱の底に車輪を付けて、巡礼されていました。犬に引かせて巡業していましたが、野うさぎが走り出てきた為に、犬が駆け出してしまいました。投げ出されて「コラッ!」と叱ったお遍路さんの姿をよく見ると、2本の足で立っていたと言うお話です。自分自身では、ただ先に進んで次の寺へと巡っているだけです。リハビリをしている感じはないので、突然治ってしまう様に感じて、弘法大師のお陰と思うのかもしれませんが。理由がどうであれ、人はそれをご利益と感じます。

ご住職に今と昔のお遍路さんの違いを聞くと、昔のお遍路さんは汚れていたと言われます。お金がないので、宿坊とか遍路堂に泊まる事ができません。そこでお寺が用意した善意根宿や堂の縁の下で眠られたとの事です。これでは衣服も汚れるはずですが、周りの人の善意、これを「お接待」と呼ばれていますが、そのお接待により、お遍路を続ける事が出来ました。この八十八ヶ所を打ち終わりますと、お礼参りとしてまず、真言宗、最終的に高野山へ行くというのが正しい順序です。しかし、中には色んな深い理由があって、お礼参りが終わってもずっと戻る事無く、ひたすら先へと進むお遍路さんもいたようです。

巡礼には、世界的に見ますと2つのパターンがあります。往復運動の巡礼と、円環運動の巡礼です。日本では山岳信仰と共に森や山のあらゆる所に神がいるという宗教観が根付いていました。そこへ仏教と共にインド式の巡礼が伝わりまして、日本流の巡礼が生まれました。この四国八十八ヶ所にしましても、右回りを順打ち、左回りを逆打ちと呼んでいて、右回りが一般的な巡り方です。

今でも、霊場のお寺にお参りをする事を『札所を打つ』と言いますが、かつては寺に参拝してお経をあげた印にお納札という物を建物に打ち付けた事からきているそうです。四国八十八ヶ所に限らず、日本人にとって巡礼というのは日常的にも馴染み深い振る舞いがあり、それをよく表しているのが島倉千代子さんの歌った、「東京だよおっかさん」という歌ではないかと説かれた学者さんがいました。

四国八十八ヶ所霊場を通してお参りするのには、大人の足で、だいたい40日から50日、観光バスツアーで11泊12日、乗用車で9泊10日、タクシーの貸切で7泊8日になります。私自身は自分の足でチャレンジしようと思っていますので、強靱な肉体と精神が必要不可欠です。現状を改善する為に、最近ジムに通い始めました。本日皆さまの前で口弁する事により、今後、自分の退職後の目標になりますが、何とか実行へ移したいと思っています。10年後位に皆さまが四国にいらっしゃった時に私を見かけるかもしれません。その時は是非お声掛けしてほしいと思いますので、よろしく願います。ご清聴ありがとうございます。

第 1070 回例会 (11月12日) のご案内

ゆったり例会

於：あつた蓬葉軒陣屋(本店) 18：30～